

幼保連携型認定こども園 西神戸 YMCA 保育園 5月えんだより

5月聖句：「主よ、お話してください。僕は聞いております。」

<サムエル記上3章9節>

暖かな5月を迎えました。子ども達の声や表情も徐々に和らぎ、新しい環境に慣れてくる時期です。室内、園外の遊びにおける約束事や子どもたちの相互の理解を深めながら子ども達の遊びの展開を計っていきたいと思います。

さて、子ども達にお話をする時は、話す側の心構えがとても大切です。子ども達が理解できる言葉の選択や声の高さ、話すタイミングや速さ等、配慮すべきことがあります。一方で、話を聴く側の心構えも重要であり、この両方がある対話は成立します。つまり、構えていない相手に対して、どんなボールを投げても受け取れないのであり、そうした環境を作るとはとても大切です。最近、テレビから流れてくるたくさんの情報や言葉は、語る側からは流暢に語られるのを耳にしますし、若者の早くて、短い言葉の会話は、言葉の持つ意味よりも「感覚」がやり取りされているように聞こえてしまいます。年齢のせいかもしれませんね。

今月の聖書のお話は、神殿の雑用係の少年サムエルが、「主よ（神様）、お話してください」「僕（しもべ）は聞いております」と神様に「どうぞお話してください。私は聞いております」と静かに答えています。彼は夢の中で声を聞きます。「サムエルよ、サムエルよ」と神様が彼に声をかけられたのか、その声が神様の声であるかどうか認識できていませんが、静かに「ここにいます」と答えたのでした。声を聴くということは、逆説的な意味かもしれませんが、「黙する」ことから始まると言われています。礼拝の中で「黙祷」から始まるのは、この神様の声を聴くために準備をするという時間ですが、声を聴くためには、黙する時が必要であり、それがあって、初めて言葉の意味を正しく、重く、意味あるものとして語ることが許されるように思います。

日常の生活は忙しい時代です。お仕事を復帰される皆さんは、新たな生活の時間に追われる毎日である、と感じる時があるかもしれません。こうした時代だからこそ、隣人との間で対話を実現するようにしていきたいと願っています。言葉を共有し、隣人の痛みを共有する、また隣人の喜びを共有すること。そのためにも「今、ここ」で語り合われる子どもやたくさんのYMCAに集う人々との対話を、祈りからはじめ、一日一日が安心と平安の内に過ごしていくことができますように願っています。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

5月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	なんだろう	感じる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *まわりに目を向け、手をのばす *園生活や保育者に慣れ、安心して過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> *聖書の話や讃美歌に親しむ *まわりの人々、社会、世界の出来事にも目を向けて恵みをわかちあう *友達や遊びの中で心を動かし、自ら関わろうとして一歩ふみ出す
讃美歌	ひとりひとりのなをよんで幼児讃美歌Ⅱ20	どんなにちいさいことりでも こども58